

2019年3月以降の国際会議での審議概要(かび毒・自然毒関連)

資料4

2019年4-5月

CCCF13

- JECFAの活動報告
- 直接消費用落花生中の総アフラトキシン(AF)の最大基準値(ML)案、サンプリングプラン
- ナツメグ、乾燥トウガラシ、パプリカ、ショウガ、コショウ及びターメリック中の総AF及びオクラトキシンA(OTA)のML案、サンプリングプラン
- キャッサバ及びキャッサバ加工品中のシアン化水素(HCN)のML設定、かび毒含有実態
- 穀類(小麦、トウモロコシ、ソルガム、コメ)、穀粉及び乳幼児向け穀類加工食品中の総AFのML設定 等

2020年10月

JECFA90

- T-2, HT-2 (CCCF11よりばく露評価を含む評価の更新が依頼された)
- 慢性食事性ばく露推定値
6.0~18 ng/kg BW/日 (T-2, HT-2, ジアセトキシシルペノール(DAS)合計)
- 毒性学的評価と総合的なリスク評価は今後議論される

2021年2月

JECFA91

- エルゴットアルカロイド(EA) (CCCF13で評価優先対象に決定)
- 急性参照用量(ARfD)
0.4 µgエルゴメトリン/kg BW
- グループTDI(総EAsの合計)
0.4 µg/kg BW/d
- 小児の慢性食事性ばく露平均値とハイパーセントイルのうち一部の推定値、そして小児及び成人の急性食事性ばく露の一部のハイパーセントイル推定値がEAsのグループHBGV(健康影響に基づく指標値)を超え、健康への懸念が示唆

2021年5月

CCCF14

- JECFAの活動報告
- 特定の穀物及び穀物加工品(乳幼児用食品を含む)中の総AFのML値、サンプリングプラン
- 直接消費用落花生中の総AFのML値、サンプリングプラン
- ナツメグ、乾燥トウガラシ、パプリカ、ショウガ、コショウ及びターメリック中の総AF及びOTAのML値、サンプリングプラン
- キャッサバ及びキャッサバ加工品中のHCN及びかび毒汚染 等

2022年3-4月

JECFA93

- T-2, HT-2, DAS
- グループARfD
320 ng/kg BW (T-2, HT-2, DAS)
- グループTDI
25 ng/kg BW/日 (T-2, HT-2, DAS単独または合計)
- DAS、T-2及びHT-2の組合わせによる急性・慢性食事性ばく露はDASに関するデータが利用可能となってから評価

2022年5月

CCCF15

- JECFAの活動報告
- 特定の穀物及び穀物加工品(乳幼児用食品を含む)中の総AFのML値、サンプリングプラン
- 直接消費用落花生中の総AFのML値、サンプリングプラン
- ナツメグ、乾燥トウガラシ、パプリカ、ショウガ、コショウ及びターメリック中の総AF及びOTAのML値、サンプリングプラン
- キャッサバ及びキャッサバ加工品中のかび毒汚染防止及び低減のための実施規範 等

2019年3月以降にFAO/WHO専門家会合から公表されているかび毒・自然毒関連の文書

CLIMATE CHANGE: UNPACKING THE BURDEN ON FOOD SAFETY (2020年4月公表)

気候変動に関連する、現在及び今後予想される食品安全の問題を特定し、定量化することを目的としたレポート。気候変動によって考慮される食品安全上の危険として、食品により媒介される病原体及び寄生虫、有害な藻類、農薬、かび毒、重金属(特にメチル水銀)を挙げ、それぞれについて気候変動による影響などを考察している。



REPORT OF THE EXPERT MEETING ON CIGUATERA POISONING (2020年6月公表)

2018年11月にローマで開催されたシガテラ食中毒に関する専門家会合のレポート。現時点ではデータギャップにより完全なリスク評価はできないとしつつも、CTXの分類や分析法についての検討など、評価のアウトラインを作成した。



JOINT FAO/WHO EXPERT MEETING ON TROPANE ALKALOIDS (2020年12月公表)

2020年3月~4月に開催されたトロパナルカロイド、ヒオスチアミン、スコポラミンに関するリスク評価のための専門家会合のレポート。

